

おおはらぼん



第10回 県学会を終えて

第10回島根県作業療法学会 学会長
平岡 千昭 (島根リハビリテーション学院)

去る11月1日(日)、松江市保健福祉センターならびに松江市立病院での10回目の県学会を無事終えることができました。これはひとえに県士会の皆様、特にこの度、主催運営にあたった橋南ブロックの松江市立病院 川上拓也実行委員長をはじめとする若い県士会員の皆様のご尽力があってこそのことだと感謝申し上げる次第です。また、当日は、休日にも拘らず多くの皆様が学会にご出席下さり、その向学心と熱意に敬服いたしました。

さて、此度は、テーマを「リハビリテーションの転換期～今、作業療法を考える～」とし、作業療法を原点から再考する糸口になればとの思いで学会運営をして参りました。凶らずも、今年度の日本作業療法学会のテーマも「温故知新」でした。作業療法が、過去、時代の変遷とともに、いくつかの転機を経てここに至ったことは、ベテランの作業療法士の方はよくご存じのことと思います。作業療法がまた一つの転帰を迎えたのではないかとの感がいたします。

そこで、この意図に沿い、福岡県より、作業療法の体験者である(株)ケアプラネッツ代表取締役の葉山靖明先生をお招きし、ユーザーの立場から作業療法に求めるものをご教授頂くことにいたしました。先生は、機能訓練モデルからの脱却こそ、作業療法のアイデンティティ構築に必要なのではなかとの示唆を下されたように思います。

作業療法は、その方法において、作業(作業活動)を使用する性質上、他の専門職のように、ランドマークとして技術・方法を示すことはできません。なぜなら、作業は、日常の中に転がっており、それが、専門職によって組み立てられたものなのか、そうでないのかを見分けることは、専門職でないとは容易ではないからです。日常にない機械器具を使用するのであれば、それを目の当たりにした瞬間に、特殊なものとして認知され、そのカリスマ的効果によって、ごく一般的な普通の実践をも専門的なものとして彩られ、理解されます。だが、作業療法はそうはいきません。そこには解説が必要になるのです。作業療法はそういった理解されにくさという特殊性を生来抱えているのです。

しかし、そうであっても、作業療法は必要なのだと思います。ごく当たり前の作業の連続が生活であり、その生活の再構築こそがリハビリテーションであるわけですから、平凡な作業に価値を見出すことが肝要ですし、それに携わる専門家としての作業療法士が求められるのではないのでしょうか。

私が、養成校時代に「これは作業療法のバイブルです」と一言添えられて、まず渡されたテキストは Willard and Spackmanの“Occupational Therapy”でした。これの「第I部歴史」、「第II部理論と原理」をもう一度読み返す価値は大いにありそうです。

そのほか、生活に結びつくコミュニケーション機器や福祉用具の紹介・体験、実践的作業療法の例として光プロジェクト(株)の代表取締役の杉村卓也先生によるショッピングリハの紹介、また、長命園の谷口稔先生、老人保健施設“虹”の瀬上賀代先生、こなんホスピタルの堀江利光先生には一般演題9題の座長としてお骨折り頂き、盛会のうちに閉会することができました。

皆様に、改めて感謝申し上げ、第10回県学会を締めくくります。

開催報告

第5回中国ブロック活動分析研究大会 兼
第1回島根活動分析研究大会

大会長 島根活動分析研究会

代表 元廣 惇 (松江生協病院 作業療法士)

去る10月24・25日、第5回中国ブロック活動分析研究大会 兼 第1回島根活動分析研究大会を松江S T I Cビルにて開催させていただきました。この度は主に20名ほどの島根活動分析研究会のメンバーで運営を担当し、中国地方から100名を超える多くのセラピストの先生方をお迎えし開催することができました。

一日目は計10題の発表とワークショップが行われました。会場設営はグループごとに密なディスカッションができるようにと、皆が向き合いアシスタント・受講生と話し合えるスタイルとしました。演者・座長の先生方、参加者の皆様の積極的な質疑応答によって大変充実した一日目となりました。

懇親会（ナイトセミナー）には、山梨リハビリテーション病院理学療法士北山哲也先生をお迎えし盛大に開催しました。研修会後にも関わらず80名を超える参加希望があり、やむなく会場を二つに分け各県の垣根を越えて交流を深めることができました。

二日目は、北山哲也先生に、「ADLを再考する」というテーマで、中枢神経疾患患者に対するリハビリテーションアプローチを中心にご講演をいただきました。症例を通してわかりやすく話して頂き、実技も含め充実した時間となりました。

最後になりましたが、本大会開催にあたり、快く講師を受けてくださった北山先生を始め、ご支援賜りました中国ブロックの皆様、又、中国地方各県から大会に参加して頂いた受講生の皆様に、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

今後も中国ブロックのセラピストが集まり、日々の臨床・教育・研究の成果を皆で持ち寄り交流を深めることのできる機会を提供していきたいと考えています。来年も10月に第2回大会を開催する予定としており、また定期勉強会も出雲市民リハビリテーション病院を会場に月一回行っております。興味がある方は是非ご参加くださいますようよろしくお願いいたします。（facebookページあり）

島根活動分析研究会を今後ともよろしくお願い申し上げます。



第10回 島根県作業療法学会教育講演への参加

社会医療法人昌林会

介護老人保健施設 昌寿苑 白鹿 真之介

平成27年11月1日(日)に松江市立病院に併設されている松江市保健福祉総合センターにて第10回の島根県作業療法学会がありました。学会テーマは「リハビリテーションの転換期～今、作業療法を考える」と題し教育講演やワークショップ、演題発表など様々なプログラムで開催されました。

今年は介護報酬が改定され対象者に対して、個別的であり活動と参加に着目した関わりを行うものとなり、同時に生活行為向上リハビリテーション加算も盛り込まれました。生活行為向上

リハビリテーション加算は、協会(各会員)が生活行為向上マネジメントを推し進めた結果、作業療法士が世に必要とされていることが伝わり、それが実ったように思います。人の背景や生活を包括的に再構築することがリハビリテーションであり、養成校で学んだそのものであると感じます。しかしながら、現在のリハビリテーションは医学モデルがまだまだ強く、身体機能面への関わりへ偏っているように思います。そんな中、左脳内出血を呈され作業療法を受けて下さった葉山靖明先生に作業療法体験やその時に抱いていた思いなど、御自身をしゃべる事例と称され御講演して頂きましたので報告させていただきます。

前半は葉山先生の個人史を踏まえ御講演して頂きました。25歳の時から世界を旅して周り、帰国後は専門学校へ教員として就職されます。家では料理を振る舞い、仕事は忙しくこなしながらもそれが楽しく充実していると思っていました。しかし40歳の時、会議中に突然脳出血され右半身マヒとなります。入院し病気になったことで人生の終わり、どん底にいると思われ、リハビリ時の機能訓練での利き手交換練習は死刑宣告であると話されました。そんな中、作業療法を受けられ、葉山先生は左手を中心に使用した料理活動(パスタリハ)は楽しく、出来上がった料理の出来栄や味に感動されます。また、患者としてではなく、趣味やこだわりなど「人」として認めてくれたことが本当にうれしかったと話され、自己の意思を持って「料理」という作業を自己選択し、パスタのメニューもこだわって作る事ができた。このこだわりこそが生きている感覚であると話されます。

後半は元患者様の視点から作業療法士へメッセージ性の強いお話しをされ、以下の3点がとても印象に残りました。1つ目は「作業療法を展開するまでの関係づくりを丁寧かつ熱心に行うこと」話しかけやすく受け入れられる態度で、患者の趣味やこだわりを分かってくれる人であること。2つ目は「その人にとっての作業を提供する事」すなわち価値観や人の好奇心など合わせアセスメントをしっかりと、意味のある作業を提供すること。(その人のカルチャーや背景など)3つ目として「患者の自己決定が出来るように働きかける」言葉や行動を発信する事が難しく、自己表出や自己決定が困難な為、出来ることと出来ない事の意志表出を導き出すことなどをお話しされました。普段の研修会では、いかに対象者の方に満足して頂けるのかを聴くこと多いです。今回、葉山先生のように作業療法を受けられた方からの話しはとても貴重な時間であり、新たな視点が増えたと思います。

学会テーマは「リハビリテーションの転換期～今、作業療法を考える」でしたが、作業療法の原点を見つめ直すのと同時に新たな着目点を見つける機会となりました。

今年度は介護報酬が改定され対象者に対して、個別的であり活動と参加に着目した関わりを行うものとなり、同時に生活行為向上リハビリテーション加算も盛り込まれました。生活行為向上リハビリテーション加算は、協会(各会員)が生活行為向上マネジメントを推し進めた結果、作業療法士が世に必要とされていることが伝わり、それが実ったように思います。人の背景や生活を包括的に再構築することがリハビリテーションであり、養成校で学んだそのものであると感じます。しかしながら、現在のリハビリテーションは医学モデルがまだまだ強く、身体機能面への関わりへ偏っているように思います。そんな中、左脳内出血を呈され作業療法を受けて下さった葉山靖明先生に作業療法体験やその時に抱いていた思いなど、御自身をしゃべる事例と称され御講演して頂きましたので報告させていただきます。



平成27年度 島根県作業療法士学会 ワークショップ活動報告

独立行政法人国立病院機構

浜田医療センター 加藤 佑季

11月1日に開催された島根県作業療法士学会において福祉用具グループのワークショップを開催しました。ポジショニングクッションによるポジショニング、リフトを使用した移乗、ポジショニンググローブを活用した圧抜きという3ブースを設置し、それぞれ来ていただいた方に体験していただきました。

今回はそれぞれのブースで行った内容を簡単に紹介していきたいと思います。

<ポジショニング体験>



ポジショニングブースではポジショニングの方法や、それぞれ形の違うクッションの使い方などについて説明、実際にポジショニングの体験をしていただきました。クッションによりそれぞれ使い道も異なっているので、新たな発見をされた方もいらっしゃるのではないのでしょうか？

<リフト体験>



リフトブースでは、来ていただいた方に実際に「乗る・動かす」体験をしていただきました。高額なものでもあるため導入されている職場は少なく、操作に対して難しい印象を持たれている方は多かったですが、実際に体験していただくことで無理に移乗をするよりも簡単に、安全にできることが伝わったのではないかと思います。

<ポジショニンググローブによる圧抜き体験>



ポジショニンググローブブースでは圧抜き体験を実施しました。よく、「ポジショニングだけして終了」という方もいらっしゃると思いますが、それだけだと圧が分散されず偏りが出てしまうため、その後の圧抜きまで行うことが大切です。グローブ自体がない職場では、買い物袋などでも代用できるため、ぜひ圧抜きまで行ってみてください。

開催報告

第10回 島根県作業療法学会 ワークショップ①

この度はワークショップへご参加いただきありがとうございました。予想以上に多くの方々のご参加に、大反響となったことを心より感謝申し上げます。今回、IT活用支援相談窓口ではコミュニケーション支援について機器の展示・体験や支援に必要な工作体験、臨床での相談窓口を設置いたしました。

コミュニケーション手段として、視線入力装置といった最新機器から透明文字盤・コミュニケーションボードの非機器手段についてまで、一連の導入場面をイメージできる展示を行いました。実際に機器体験を通して、「どこの部位にこのスイッチをつけると、動かしやすいですか」「どんな人が使用されることが多いですか」「実際に利用される方にどういった支援をしたらいいのでしょうか」など様々なご意見をいただきました。初めての機器体験であり、コミュニケーション支援も未経験の方が多くおられました。

支援には機器への知識だけでなく手段の導入に至る背景因子や身体機能面など多面的(多角的)な評価が求められる必要があり、それは作業療法士の得意とする分野の一つではないかと思われまます。今回の多くの反響からコミュニケーション支援におけるニーズの高まり、作業療法の一つの手段としての認知度の向上を反映していると思われまます。当チームでは年間活動としてワークショップを開催し、工作体験や機器体験、事例報告会を実施しております。情報共有の場としても活用できればと考えております。

また、コミュニケーション手段だけでなく、ナースコールといった呼び出し機器やスイッチ等におけるご相談も対応しております。相談先に悩まれた方は以下までお気軽にご連絡ください。

shimaneit@gmail.com

IT活用支援相談窓口係

飯塚智香 森脇繁登 村上直美 加藤伸一 吉岡将太



生活行為向上マネジメントと作業療法理論

島根リハビリテーション学院
宇都宮 賢一

皆さん、こんにちは。 新年を迎え、いかがお過ごしでしょうか。

今回は生活行為向上マネジメント（以下、MTDLP）に作業療法理論をふまえたお話をしてみたいと思います。

MTDLPは、WHO（世界保健機関）が2001年に制定した「ICF（International Classification of Functioning, Disability and Health）」：生活機能・障害・健康の国際分類（以下、ICF）を用いて作成するようになっていきます。

MTDLPシートを使用した方の中には、ICFを用いることでMTDLPの使用法に戸惑った経験をしている方もいるのではないのでしょうか。これは、ICFの医学モデル的特性が影響し、作業モデルや社会モデルをイメージしてMTDLPを実践しようとした場合に起こっているように思います。

作業療法の理論には、「生体力学的モデル」「運動コントロールモデル」「認知-知覚モデル」「人間発達モデル」「感覚統合モデル」「人間作業モデル」「カナダ作業遂行モデル」「認知能力障害モデル」など分野・疾患等により様々なものがあります（※1）。

作業療法における理論はBestなものはなく、どの理論を用いても対象者の利点となります。言い換えれば「作業療法のIdentity」は幅が広いともいえます。

「作業療法のIdentity」の幅が広ければ、MTDLPという限定されたシートに当てはめることに当然、違和感があるかもしれません。

しかし、私としては皆さんがもつ理論を是非、MTDLPに活かしていただけないものかと思っています。

「MTDLPは近年、日本作業療法士協会が開発したもので、世界的に用いられている作業療法(理論)とは別物である」という意見を聞いたことがあります。MTDLPに修正すべき点もありますが、「作業に焦点を当てること」は作業療法(士)の原点でもあり、それぞれの理論を用いてMTDLPを実践することは可能と思われます。

例えば、「カナダ作業遂行測定 (COPM)」を実践するときは、基本となる考え方として「カナダ作業遂行モデル (CMOP)」を用います。

私は「カナダ作業遂行モデル (CMOP)」同様にMTDLPにおいても、礎となる理論が必要ではないかと思っています。MTDLPでは現在、ICFコードを使用していますが、評価やアプローチの基本的な考えとして各理論を用いることは可能ではないでしょうか。

皆さんは各理論を探究するために日々、勉強に励まれ、対象者の方に関わっていらっしゃると思いますが、対象者や対象者を取り巻く方々に対して、心身・社会的に良い状態であること (well-being) を目標に、作業療法を提供していることは、全ての作業療法士に共通していると私は思います。

理論をふまえたMTDLP実践は、作業療法士としての強みでもあるといえます。

是非、試してみてください。

※1もっと多くあると思いますが、勉強不足で列举できず申し訳ありません。

開催報告

作業療法普及啓発事業

平成27年9月19日から23日の5日間にわたり作業療法普及啓発事業を開催しました。皆様のご協力あって、無事に事業を実施することができましたことをご報告とお礼申し上げます。

今後も当事業でより多くの県民に作業療法（士）の治療、指導及び援助の過程を伝え、島根県の保健・医療・福祉の向上に寄与できるよう励んでまいります。

- ＜期 日＞ 平成27年9月19日（土）～23日（水）
- ＜会 場＞ 松江イングリッシュガーデン 多目的ホール、北・東回廊
- ＜内 容＞
- 公開講座「地域を活かす作業療法」
西上忠臣氏（特定非営利活動法人ちゃんくす代表 作業療法士）
 - 作業体験（パステルアート）
 - 作品展示（95点）
 - 写真展示（45点）
- ＜来場者数＞ 9月19日公開講座及びオープニングイベント191名
- ＜アンケート結果＞回収数101
- ・参加区分
 - 一般：48／当事者・家族：6／OT：19／医療・福祉職：14／学生：9／
 - その他：2／未回答：2
 - ・作業療法について理解できたか
 - よく分かった：45／わかった：37／あまり分からなかった：4／
 - 分からなかった：6／未回答：9

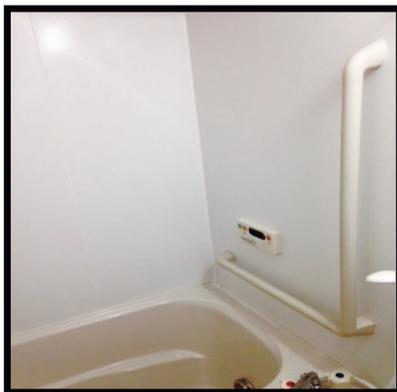
住宅改修

～浴室～

浴槽へのまたぎやすさは、安全面において重要です。浴槽を立位で跨ぐ、座位で跨ぐ、いずれにおいてもバランスを崩しにくい環境が必要です。

それを改善する為に、写真のような浴槽の出入り環境を整えています。

手すりは浴槽の縁の垂直線上に取り付けます。壁の方向を向いて両手で手すりを握り浴槽を跨ぐ動作がバランスを保ちやすい動作なので、洗い場と浴槽上に長い手すりを設置すると良いと思います。



ちょっと一言つぶやくわ。

第三回 今回写真はありません。

こんにちは、ジャスミンよ。

いよいよ松江市にも業界最大手の某コンビニチェーンがやってきたわね。店員の勧誘によって電子マネーを作りました。必要のない弁当も買いました。レジを待って10分並びました。「このジャスミン茶は一味違うわ」とか勘違いもしています。いかに自分がミーハーか思い知るわね。恥ずかしい。

さて、今回は県学会に参加しました。葉山先生の特別講演では自分がきちんと患者様と向き合っているのだろうか、などと自問自答する時間にもなりました。きっとはっきりとした答えは出ないかもしれませんが、考えることで人間の心は太い幹になって天高く伸びていくのかと。

オクラみたいだね。だけどこれ以上横に成長するのはごめんよ。着れる服が少なくなっちゃうから。

会期中は本誌に掲載するための写真も何枚も撮らせて頂きました。各講演、企画、発表ごとにベストショットを選んだつもりです。

スペースの問題でどうしても掲載できなかった被写体の皆様すみません。そして皆様ご協力ありがとうございました。その影響で今回の連載の写真はありません。申し訳ございません。

新理事の横顔

平成 27・28 年度、福利厚生部副部長をさせて頂くことになりました、益田市の益田地域医療センター医師会病院に所属しております和崎博典です。

福利厚生部の主な活動内容としては、懇親会の開催、中国地区作業療法士会サッカー大会への参加、慶弔・電報の管理、会員同士の交流を促進してまいります。

平成 27 年度の中国地区作業療法士会サッカー大会では、島根県作業療法士会チームは参加 5 県総当たり戦で見事、優勝いたしました。次年度以降も継続して参戦する予定ですので経験有無は問わず皆様どうぞご参加・応援をお願いいたします。

福利厚生部として地域での活動の場を広げるお手伝いが出来ればと思っています。至らない点もあるかと思いますが宜しくお願い致します。



財務部より

☆☆☆会費納入について☆☆☆

県士会会費納入はお済みですか？

今一度ご確認の上、納入が完了していない方は速やかにお振込み下さい。

未納3年を超えると退会となる可能性があります。

ご確認の上、速やかにお振込下さいますようお願いいたします。

編集後記

明けまして

おめでとうございます。

皆様、年末年始、年度末とこれから忙しくなると思います。忙しくなると余裕がなくなり焦りがちになります。落ち着いて心穏やかに過ごしていきましょう。

平成28年も皆様のご活躍を期待しております。

おおはいごんも引き続きよろしくようお願いいたします。

平成27年9月1日 現在 施設数116 会員数431名

一般社団法人 島根県作業療法士会ニュース 年3回発行

□編集担当 石倉健一・白鹿真之介・大中信祐・岩田竜太・岡 哲也・足立貴哉

□投稿（400字程度）、提案、情報提供を歓迎します。

発行所 〒699-1511 島根県仁多郡奥出雲町三成 1625-1

一般社団法人 島根県作業療法士会広報部 島根リハビリテーション学院 (TEL 0854-54-0001 FAX 0854-54-0002)

発行者：泉 靖司／編集者 石倉健一・白鹿真之介

印刷：障がい者支援施設 授産センターよつば（〒690-0131 松江市打出町43）